

各位

全4ページ
登録速報(2026-048)
2026年4月8日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2026年4月8日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第24584号

名称：ハヤドリ豆つぶ250

2. 変更の内容

農薬登録申請書第6項中、以下を変更し【変更後】のとおりとする。

- ・使用時期「植代後～移植前7日」に使用方法「水口施用」を追加する。
- ・使用方法に「無人航空機による散布」を追加する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ	植代後～移植前7日 又は移植直後～ノビエ1葉期 但し、 移植後30日まで	250g/10a	1回	湛水散布、 湛水周縁散布、 水口施用又は、 無人航空機による散布

フェキサルホンを 含む農薬の総使用回数	フェントリホンを 含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容
(1) 農薬登録申請書第7項中、1)を追加、以降を繰り下げ、5)を変更、別紙【変更後】のとおりとする。

【追加】

- 1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

【変更後】

- 5) 散布に当っては、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めること。

- (2) 農薬登録申請書第9項中、以下の2)を追加し、以降を繰り下げ、別紙【変更後】のとおりとする。

【追加】

- 2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。

7. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

【変更後】

- 1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの1葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイは1葉期まで、ミズガヤツリは草丈5cmまで、ウリカワ、ヘラオモダカ、ヒルムシロは発生始まで、セリは再生始まで、オモダカは発生前までが本剤の散布適期である。
- 3) オモダカは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 4) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 5) 散布に当っては、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 6) 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 7) 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態（水深3～5cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 8) 水口に対して向かい風が吹いている場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用をさけること。
- 9) 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布または水口施用をさけ、本田内で水田全面に散布すること。
- 10) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - ②活着遅延を生じるような異常低温の時
 - ③砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
 - ④軟弱苗を移植した水田
 - ⑤極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - ⑥植穴の戻りの悪い水田
- 11) 除草効果が低下するおそれがあるので、梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は使用をさけること。
- 12) 吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布すること。濡れた手で扱わないこと。また、開封後は早めに使用すること。
- 13) 無人航空機で散布する際は以下に注意すること。
 - ①散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
 - ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
 - ③事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の開度を調整する。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から適切な距離を離して圃場内に散布する。
 - ⑤水源池、飲料用水などに飛散、流入しないように十分注意する。
- 14) 散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 15) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。

- 16) いぐさの栽培予定水田では本剤を使用しないこと。
- 17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

9. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

【変更後】

- 1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- 3) 散布後は水管理に注意すること。
- 4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

以上